



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	社会誌学
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	社会誌学講義東洋大学社会学部
Issue Date	1964
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77369
Type	manuscript
File Information	N034_01S39.pdf



Superior Note Book

MADE BY B/B B NOTE CO LTD
USED SUPERFINE FOOLSCAP MANUFACTURED IN JAPAN

社会学

社会学部

昭和三十一年



三美A30

和一回講義 (十月二十一日)

現在の下下の社会の理解が、我々の

研究の出发点であり、終着点である。

昭和二十九年秋の日本社会と二十九年

の日本社会。強い変化。

史上最大と云ふ事、
東洋人の歴史研究
世界で最高と云ふ
有田、水谷、松本、
造、船、長、漢、渡、堂

事。

日本社会の成長。

過去と将来の中の現在
この変遷過程を脱するは本来的に社会現象の理解は

不可解である。この変遷を合理的に説明し得るものは日本の
日本社会は

研究の中心である。理解とは同様なわけが、事象の

である。日本社会は、この変遷の代表者である。

我々の研究は、この時代であり、外は何かとも異なる。

未踏領域の多くを踏こいし者や学者は幸福であ
る。
日本の文化は

彼は外口の学究の研究を禁制し得なく、自分の
足下の
暇と直接に社会の現象を平しく理解せしむ
得つとめなさい。日本は工業化の途にあり、文字を
研究領域がある。現在の研究は、研究の範囲を
拡大する。研究を深めていく。一生うさじんく
研究すしかたもある。研究果は、研究の成果。
地理的・社会的・経済的・政治的・文化的・歴史的・科学的
総合の性格と成長史と能力を拡大し、研究
対象を身体にまで広げよう。そしてその研究に達
立つ研究を協同利用する。これは遠くなく、内外
の学究の研究を協同した。研究するのば

自分と主とを
外にで
るもの

便利便利

予が必死に努力した研究の1つが、同位体とよま
 ではない。今、部派は機械が、同位体とよま
 ない。

私の社会を研究する、
元々一冊の自伝。考へておられる
と云う。詩歌無ければ

山手時代 - 密着型と大時代 - 下町時代

北暖化 都方 元古石 東洋工部 口民部

家族は如何に変化しつゝあるか
農耕は如何に变化しつゝあるか

都市は如何に变化しつゝあるか

口尾社会は如何に变化しつゝあるか

第一回 (十月二十日)

口民社会は如何に急変して、あゝか

日本の一流の通を

生後一世界市場への通を
消費者一生活水準、家があふれ

前人類の時期が始まり、やがて来る。戦時中は別で、
平和な暮らしにはいよいよ口民の力がつくる。生活の

日本は完全な口民の時代。生活の中心は、生活の中心は、
今では皆それ。職業があふれ、生活は豊か

といふ。求人、大都市を中へ、こんな生活は、
に下段工業、機械、不配置、水、男、女、

老若男女、色の職、帯、物、か、せん、と、いふ、
交通路の急変、電、車、や、バス、自、御、車、に

急変、
然、求人、に、終、へ、る、能力、が、口、民、人、は、用、意、を、
て、い、う、明治、以後、の、教育、の、効果、は、意、外、と、著、し、く、自、然、

我、の、基、の、代、謝、等、の、代、は、さ、ん、が、知識、力、を、な、
り、本人、の、能力、が、つ、に、活、動、を、ほ、い、め、と、口、民、の、
は、世、の、流、に、従、ひ、て、い、う、事、業、は、あ、る、い、う、
多、く、も、技術、で、い、う、は、術、で、い、う、(但、し、は、科学、大、

は、ため、に、活、動、の、力、を、あ、げ、て、い、う、と、自、己、の、力、を、
は、本人、の、能力、が、つ、に、活、動、を、ほ、い、め、と、口、民、の、
は、世、の、流、に、従、ひ、て、い、う、事、業、は、あ、る、い、う、
多、く、も、技術、で、い、う、は、術、で、い、う、(但、し、は、科学、大、

医生的责任

張其成

こんな事、情、力、又世界の政治力の均衡、これが一が事である。今、米の村、おちおち、二人、早く、事は、あつた。大、中、央、に、あ、る。

政治の指導の下に教育界の活動が盛んとなり、政治と教育の協力の下に急激な口民衆運動の組織が生まれ、口民はこれに直ちに應じ起ち上り、米ソの結立、終戦後の福にあらたに日本人が二十年中の間にこれに地盤を築き、口民の實力であるが、又軍隊と云ふべきもの、日本にはそんな大さな軍隊が、史上なつたことは、我々はこれにあらうであらう。

一日、露我帝日本海に戦し、こつこつといふ

江戸時代
の
装束

三石齋
鑄金詩
風

四 是の頃、兵の中に軍の的大口は、老若の才、星帝が

あるが、朝鮮の四郡の經營方針（笑）史の
代、端生、天、平、化、が、来、た、次、（隨、唐、は、大、い、て、あ、る、

か
れ
の
大
口
で
あ
れ

五米作鉄梁の五米の五米

口内の戦いの成長史

(所お合併の例)

日蓋カを二一

我々の口内の成長の歩みを見れば、政治と経済は民の前進を導き出す中心力である。

口内が昔より幸福な生活を保証する。政治

皆一審に

情三

口内の力が充分に発揮し得る経済の増進——労働の確保

労働の確保が適正な増進

而して我々の理想は、何れも口内も完全ではない。その完全を期するの増進は、社会の増進とあり。

い村の魔屋(可哀)ハナの出城

口内生活

終戦後の生活は、戦時中より多少の不自由はあったが、社会秩序は安定し、経済も多少の増進を見た。

戦時中は、物資の不足、生活の苦しい、戦後の復興、経済の増進、政治の安定、社会の発展、口内の生活は、戦時中より多少の不自由はあったが、社会秩序は安定し、経済も多少の増進を見た。

合併の方向 アメリカのせんたあ Village

口内 Community = American Rural Community
Community Organization, Community Development
の漢字

American Community 双児の夢と Americanization

日蓋

人が社会生活をするが、社会生活は、政治と経済の増進を導き出す中心力である。口内の生活は、戦時中より多少の不自由はあったが、社会秩序は安定し、経済も多少の増進を見た。戦後の復興、経済の増進、政治の安定、社会の発展、口内の生活は、戦時中より多少の不自由はあったが、社会秩序は安定し、経済も多少の増進を見た。

口内の生活は、戦時中より多少の不自由はあったが、社会秩序は安定し、経済も多少の増進を見た。戦後の復興、経済の増進、政治の安定、社会の発展、口内の生活は、戦時中より多少の不自由はあったが、社会秩序は安定し、経済も多少の増進を見た。